

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.6.25 No.109 連絡先 FAX 042-555-1911



6月21日 日米安全保障協議会（2プラス2）開催 辺野古に V字型滑走路で新基地建設 合意

日米外務・防衛担当閣僚による 2 プラス 2 がワシントンで開かれ、「より深化し、拡大する日米同盟に向けて：50年間のパートナーシップの基盤の上に」「在日米軍の再編の進展」「在日米軍駐留経費負担」「東日本大震災への対応における協力」と題する 4 つの文書を発表しました。このうち「在日米軍の再編の進展」では、普天間基地に替わる新基地は辺野古で、1800 ㎡の滑走路の形状は V 字型（上図）と決定。辺野古「移設」とグアムへの海兵隊移転の期限は 2014 年となっていたが、「2014 年より後のできる限り早い時期に完了させる」と、先送りしました。



「在日米軍の再編の進展」では、普天間基地に替わる新基地は辺野古で、1800 ㎡の滑走路の形状は V 字型（上図）と決定。辺野古「移設」とグアムへの海兵隊移転の期限は 2014 年となっていたが、「2014 年より後のできる限り早い時期に完了させる」と、先送りしました。

2プラス2「航空総隊司令部の横田への移転の重要な進展を歓迎」と言及

横田基地については、「閣僚は、共同統合運用調整所（BJOCC）が日本の 2011 会計年度末までに運用を開始することに留意した。これは、情報共有を含め、二国間の司令部の調整の強化における重要な前進となるものである。閣僚は、航空自衛隊航空総隊司令部の横田への移転の重要な進展を歓迎した。」などと書かれています。



6月23日 沖縄「慰霊の日」は反戦の日

第2次世界大戦で、沖縄は激しい地上戦となり、県民4人に1人が犠牲となりました。南へ南へと逃げ、糸満の摩文仁の丘で、多くの人々が海に身を投げました。1945年6月23日、沖縄では旧日本軍の組織的戦闘が終わりました。今年も6月23日、摩文仁の平和祈念公園で、沖縄全戦没者追悼式が行われました。公園の平和の礎（いしじ）には、24万人余の名前が刻まれています。（写真）

沖縄県主催「沖縄全戦没者追悼式」で朗読された「幸せの一枚」の詩

「私の祖母が持つ一枚の写真 何年も経つけれど 忘れられない笑顔 忘れられない言葉
小学生の頃 先生がだした宿題 家族から戦争の話を知ること 急いででかけた 祖母の家 祖母は何も言わず 棚の奥から 一枚の写真を 取り出した」と詩ははじまります。

古びた写真には、たくさんの子どもの笑顔が、キラキラと輝いていました。写真の真ん中に写る女性が、祖母でした。「この子たちは？」と尋ねると祖母は「おばあちゃんの生徒たち」「大切な大切な生徒達」と「一人一人の顔を 愛おしそうに 懐かしそうに 指でなぞるように」眺めるのです。「みんなどうなったの？」の問いに祖母はずっと黙ったままでした。

長い沈黙のあと「どうして戦争なんかするのかねー 戦争さえなかったら みんな幸せだったのに…」と祖母。写真の顔はみんな幸せそうに笑っています。「その笑顔を 幸せを 奪った戦争を 私は許さない 絶対に許せない」「私は忘れない 私たちが忘れない限り 平和は続くだろう」
〈詩を朗読したのは、浦添市仲西中学2年の嘉味田朝香さん（13）〉

▼日本のプルトニウムがフランスの核兵器に？…もんじゅに使われているプルトニウムは、日本がフランスに再処理を依頼して抽出したもの。再処理というのは、原発で燃やしてしまったウラン燃料の中に出来たプルトニウムを取り出すことだが、プルトニウムはそういうふう人工的にしか作れないものだ。そのプルトニウムがもんじゅには約 1.4 トンも使われている。長崎の原爆は約 8 キロだったそうだが、一体、もんじゅのプルトニウムでどのくらいの原爆ができるか。それに、どんなに微量でも肺ガンを起こす猛毒物質だ。半減期が 2 万 4 千年もあるので、永久に放射能を出し続ける。だから、その名前がプルトー、地獄の王という名前からつけられたように、プルトニウムはこの世で一番危険なものといわれるわけである。

日本のプルトニウムが去年（1995 年）南太平洋でフランスが行った核実験に使われた可能性が大きい。フランスの再処理工場では、プルトニウムを作るのに核兵器用も原発用も区別がない。だから、日本のプルトニウムが、この時の核実験に使われてたことはほぼ間違いない。

世界中が諦めたのに、日本だけはまだ、普通の原発で、ウランとプルトニウムを混ぜた燃料（MOX 燃料）を燃やす、プルサーマルをやろうとしている。しかし、これは非常に危険。分かりやすくいうと、石油ストーブでガソリンを燃やすようなこと。原発の元々の設計がプルトニウムを燃すようになっていない。プルトニウムは核分裂の力がウランとはケタ違いに大きい。だから原爆の材料にしている。早く原発を止め、プルトニウムを使うことも止めなければ。

▼日本には途中でやめる勇気がない…世界では原発の時代は終わだ。原発の先進国のアメリカでは、2 月（1996 年）に 2015 年までに原発を半分にすると発表した。それに、プルトニウムの研究も大統領命令で止めている。あんなに怖い物、研究さえ止めた。

もんじゅのようにプルトニウムを使う原発、高速増殖炉も、アメリカはもちろんイギリスもドイツも止めた。ドイツは出来上がったのを止めて、リゾートパークにしてしまった。世界の国がプルトニウムで発電するのは不可能だと分かって止めた。日本政府も今度のもんじゅの事故で「失敗した」と思っている。でも、まだ止めない。これからもやると言っている。日本は決めたことを途中で止める勇気がない。途中で止める勇気がないというのは非常に怖い。

とにかく日本の原子力政策はいい加減なのだ。日本は原発を始める時から、後のことは何にも考えていなかった。廃棄物一つのことさえ、どうにもできない。もう一つ、大変なことは、いままでは大学に原子力工学科があって、それなりに学生がいたが、今は若い人たちが原子力から離れてしまい、東大をはじめほとんどの大学からなくなってしまった。

▼廃炉も解体も出来ない原発… 1966 年に、日本で初めてイギリスから輸入した 16 万キロワットの営業用原子炉が茨城県の東海村で稼動した。その後はアメリカから輸入した原発で、途中で自前で造るようになったが、今（1996 年）では、この狭い日本に 135 万キロワットというような巨大な原発を含めて 51 の原発が運転されている。

具体的な廃炉・解体や廃棄物のことなど考えないままに動かし始めた原発だが、厚い鉄でできた原子炉も大量の放射能をあびるとボロボロになる。だから、最初、耐用年数は 10 年だと言って、10 年で廃炉、解体する予定だった。しかし、1981 年に 10 年たった東京電力の福島原発の 1 号機で、当初考えていた廃炉・解体が全然出来ないことが分かった。国会でも原子炉は核反応に耐えられないと、問題になった。放射能がある限り廃炉、解体は不可能。人間にできなければロボットでという人もいる。でも、研究はしているが、ロボットが放射能で狂ってしまっって使えないのだ。最初に耐用年数が 10 年といわれた原発が、もう 30 年近く動いている。そんな原発が 11 もある。くたびれてヨタヨタになっても動かし続けていて心配でたまらない。